

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-74	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	言文 703	精選 言語文化		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、

思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動を通して、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
言の葉の森に分け入る	様々な時代の文章を読み、日本語の特徴に触れることををとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	9～22
古文入門	現代の言葉とは異なる古文に親しむことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	23～38
随筆	異なる文章を読み比べることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	39～60
物語	時代とともに形を変えながら親しまれてきた物語を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	61～76
和歌	和歌の理解をふまえ、短歌を作ることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	77～96
軍記	死生観の表れた文章を読むことをとおして、生命を尊び守っていく態度を養うことを目指した（第四号）。	97～110
日記・紀行	異なる時代の文章を読み比べることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	111～130
漢文入門	訓読の基礎を学び、親しむことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	131～144
故事成語	現在も使われる故事成語の元となった文章を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	145～156
史話	史話の登場人物達の生き方について考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	157～170
漢詩	時代を越えて読まれてきた漢詩について学ぶことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	171～188
文章	人材登用に関連した文章を読むことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	189～192

思想	論語で理想とされた君子について考えることをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	193～202
小説一	作品の読み比べや書き換えをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号・第五号）。	203～224
詩	朗読会を行うことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	225～240
小説二	作品の構成や場面に注目して読むことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第一号・第二号）。	241～262
短歌と俳句	短歌・俳句の流れについて学び、実作することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第二号・第五号）	263～280
小説三	戦争体験について書かれた文章を読むことをとおして、生命を尊び守っていく態度を養うこととともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第四号・第五号）。	281～310
日本語の内と外	日本の言語文化についてそれぞれの視点から描かれた文章を読むことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第五号）。	311～326

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-74	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	言文 703	精選 言語文化		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

1 日常生活における言語活動の活発化を目指し、基礎、基本の充実を目指した教材

教材の選定, 教材化に当たっては, 中学校国語科における学習の成果をふまえて, 高校生として望ましい国語の力を身につけ, 日常生活における言語活動を活発化できるよう, 発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に古文編, 漢文編に関しては, 入門期であることをふまえ, 興味を持って学習し一層の発展が期待できるよう, 特別に工夫を凝らしました。また, 生徒たちが自らの思考力, 判断力, 表現力を高め, さまざまな角度から問題を取り上げ, 人生, 社会, 言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

2 感性豊かに人間の姿や心情を描いた, 想像力を刺激する魅力あふれる教材

人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化することにより, 日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ, さまざまな角度から言語文化の諸側面にふれ, 日本の伝統文化にふれることができるよう配慮しました。特に, 古典の現代的意義を日常の言語活動に即して把握できるよう, 読みなどの音声的側面や, 古典作品と近代以降の作品とのつながりにも配慮しました。

3 読書に親しみ, 知識と教養を身につけることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ, 真理を求める態度を養うため, 読書に親しみ, その意義と効用を考える契機となるような作品を選び, 教材化を図りました。

4 バランスよく配置された, 定評ある教材と現代的话题の教材

教材の選定は, 従来から教材化されて定評のある作品を機軸としつつ, 特に近代以降の文章では, 現代的な話題や視点について考えることのできる作品や文章を教材化して, 生徒の興味を喚起できるように配置しました。また, 日常生活において適切に表現する能力を育成し, 伝え合う力を高め, 必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。

(2) 構成と配列の基本方針

言語文化という科目の性格をふまえ, 一つ一つの教材の価値を大切に, 言語活動をとおした体系的な知識の習得と生徒の主体的・継続的な学習の流れを保障するため, この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し, 時代・文種で分けた単元構成としました。その上で, 冒頭と末尾に「言の葉の森に分け入る」「日本語の内と外」を置き, 各単元が相互に関連していることを示し, 時代・文種を越えた「言語文化」全体の来し方行く末を見わたす単元として位置づけました。

古文では文法など, 漢文では句形や訓読で注意する語などの基本事項を解説するとともに, 適所にコラムを配置し, 徒らに抵抗感を覚えることなく, 古典世界に興味関心を持てるよう配慮しました。近代以降の文章では, 素材の特質と学習進度を考慮しつつ教材を精選するとともに, 近代以前の諸作品とのつながりについて, あるいはグローバル社会における日本の言語文化について考えさせるための課題設定に意を尽しました。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方, 我が国の言語文化についての生徒の関心を広げ, 知識及び技能の着実な理解を図るために, さまざまな工夫を凝らしました。

それぞれの教材に「語句と表現」を設け, 語彙・表現・漢字について取り立てることで, 文化の継承, 発展, 創造を支

える言葉の働きや、我が国の言語文化に特徴的な表現について興味・関心を持てるようにしました。また、「学びを広げる」では、言葉に着目した活動を通して我が国の言語文化に特徴的な表現の技法を学ぶだけでなく、それを文章の中で使うなど、総合的な国語の運用能力の向上を図るため、特に配慮してあります。

古文・漢文においては、「文法から解釈へ」「古文を読むために」「漢文を読むために」を設置し、我が国の言語文化に特徴的な表現の技法と効果、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、作品や文章の歴史的・文化的背景などについて理解が深まるようにしました。また、文語のきまり、訓読のきまりについてはコラムを単元内に組み込み、「語句と表現」「学びを広げる」と関連づけることで、徒らに網羅的なものとならないよう留意しました。

3 「書くこと」

短歌の創作、小説の書き換え、俳句の実作といった表現活動を設定しました。実作の手順や例を示すことで、自分の知識や体験の中から適切な題材を決定し、表現したいことが明確になるように配慮するとともに、効果的に文字を書く機会となることを企図しています。また、作品の形式についての学習を先に行うことで、自分の体験や思いが効果的に伝わるような表現の工夫を自らの実作に活かし、言語文化の担い手としての自覚をもてるようにしました。

4 「読むこと」

時代・文種で分けた単元とすることで、各時代・ジャンルについての知識を整理しつつ、深く学ぶことができるようにしました。教材の配列は、学習の段階を考慮しつつ、興味関心を継続的に喚起し得る変化に富んだものとなるよう、特に配慮しました。

古文・漢文においては、現代につながる古典という観点から、生徒たちが容易にその世界になじみ、興味と関心をもつことができるような教材を選定しました。また、生徒の発達段階に即した、話題性に富む作品を精選し、挿絵や写真などを利用して、視覚的な面からも理解を深めることができるよう配慮しました。

近代以降の文章では、古典とつながる近現代という観点から、生徒の発達段階に留意しつつ、生徒自らが何らかの言葉を発したくなるような教材を精選しました。また、「学びを広げる」「文学の扉」などで古典作品が近現代に与えた影響について、興味と関心をもつことができるようにしました。

ほかに、「古典の扉」「文学の扉」といったコラムや「和歌の世界へ」「漢詩の世界へ」といった特設ページを設置することで、作品や文種について学ぶだけでなく、時代の変化とともに移り変わる「言語文化」の流れを理解できるようにしました。また、「学びを広げる」を適宜配置し、翻案や読み比べ、詩の朗読会といった活動を設定しました。作品についての理解を深めつつ、多角的な視点を持ち、他のジャンルに目を向ける契機となることを企図しています。「学びを広げる」やコラムにおいては、書き下し文や現代語訳などを利用することで生徒の理解を助け、言語文化への興味関心が深まるようにしました。

5 学習指導についての配慮

- ①課題……各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目を、問いや作業の示唆の形で適宜盛り込みました。
- ②学びを広げる……「課題」を発展させ、その理解を高める活動として、体系的かつ協働的に深め、広げられるような課題を適宜設けました。
- ③語句と表現……教材中の言葉や表現に着目し、表現力を高めるための課題や活動を設定しました。
- ④漢字……常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載しました。
- ⑤脚注……生徒の学力を考慮し、自発的学習を促すためにも、生徒が容易に調べられるものや文脈で理解できるものは除き、必要最小限のものにとどめつつ、読みの抵抗を少なくするために、適宜平明かつ簡潔な解説をほどこしました。
- ⑥語句・句法・訓読で注意する語……近代以降の文章編では、教材の中から語彙を広げる上で注意すべき語句や慣用句を選び出し、本文中に印を付して、見開きごとにまとめて脚注欄に示しました。生徒が習得し、日常の使用に利することが望ましいものを、生徒の語彙力を十分に考慮して選んであります。古文編では、古文理解の上で基礎となると思われる古今異義語・古文特有語を中心に印を付して脚注欄に掲げました。漢文編では、漢文理解の基礎となる基本的な句法と、訓読の際特殊な読み方となり注意すべき語についてそれぞれまとめ、本文に印をつけて掲げました。
- ⑦脚間……丸番号を用いて、脚注欄に据えました。「脚間」は「課題」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取るものないように配慮しました。
- ⑧二次元コード……各単元の扉など、必要な場所に適宜二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

6 用字・用語・表記について

- ① 送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および

「例外」によりました。

- ② 常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③ 常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。
- ④ 仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。
- ⑤ 詩歌教材・小説教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典教材については、生徒の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫を凝らしました。
- ⑥ 外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

7 写真・挿絵・図版などについて

教材の読解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

8 「資料編」について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

- 「文学史年表」「古典文法要覧」「古文重要語句」「漢文の基本形式」「訓読で注意する語」「漢文参考略年表」
- 「旧国名・都道府県名対照図」「平安京条坊図」「内裏図」「大内裏図」「京都付近地図」「奈良付近地図」
- 「住居・調度」「装束」「陰暦」「古時刻・古方位・十干と十二支」「中国参考地図」「常用漢字表」（二次元コードによるリンク）

これらの活用により、多様な学びの可能性がひらかれ、学習者の言語活動が豊かなものとなることが期待されます。

2.対照表

図書構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
分け入る	言の葉の森に 日本語の響き	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・オ ◆我が国の言語文化 ア・エ・オ・カ	10~16	3
	日本語の表記法	●読むこと オ [言語活動例] ア・ウ	17~22	
古文編	古文入門 古文の世界へ	◆言葉の特徴や使い方 ウ・オ ◆我が国の言語文化 ア・ウ	24~25	2
	児のそら寝	●読むこと オ	26~27	
	絵仏師良秀	[言語活動例] イ	32~33	
随筆	枕草子（春はあけぼの／ありがたきもの）	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	40~43	5
	古典の扉 古典の四季・美意識	◆我が国の言語文化 イ・ウ・エ・カ	44	
	徒然草（つれづれなるままに／ある人、弓射ることを習ふに／丹波に出雲といふ所あり／奥山に、猫またといふものありて／ある者、小野道風の書ける／雪のおもしろう降りたりし朝／神無月のころ）	●読むこと ア・イ・ウ [言語活動例] イ	46~54,56	
	学びを広げる 章段の読み比べ		55	
物語	竹取物語	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	62~65	4
	学びを広げる 古典作品の典拠利用	◆我が国の言語文化 ア・イ・カ	65	
	古典の扉 平安時代の成人と結婚	●読むこと ア・イ・エ [言語活動例] イ・オ	66	
	伊勢物語（芥川／東下り）		68~70, 72~75	

和歌	万葉集	◆言葉の特徴や使い方 ア・オ	78~81	3	
	古今和歌集	◆我が国の言語文化 ア・イ・エ	82~85		
	新古今和歌集	●読むこと ア・エ・オ	86~89		
	古典の扉 和歌 つながろうとする言葉	[言語活動例] イ・エ・オ	96		
	和歌の修辞	◆言葉の特徴や使い方 ウ・オ ◆我が国の言語文化 ア・ウ ●書くこと ア・イ [言語活動例] ア	90~93	3	
軍記	平家物語 (祇園精舎/木曾の最期)	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	98~106	3	
	学びを広げる 古典作品の典拠利用	◆我が国の言語文化 ア・イ・カ ●読むこと ア・エ	105		
	古典の扉 装束描写が生み出す効果	[言語活動例] イ・オ	107		
日記・紀行	土佐日記 (門出/忘れ貝/帰京)	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	112~120	4	
	古典の扉 月と暦	◆我が国の言語文化 イ・エ・カ	121		
	奥の細道 (旅立ち/立石寺/大垣)	●読むこと ア・イ・エ・オ	122~129		
	学びを広げる 古典作品の読み比べ	[言語活動例] イ・ウ・オ	129		
	古典の扉 古典における「旅」		130		
漢文編	漢文入門	漢文の世界へ	◆言葉の特徴や使い方 ア・オ	132~135	3
		漢文の基本構造と訓読	◆我が国の言語文化 ア・エ・オ	136~143	
		古典の扉 身近にある漢文	●読むこと ア・オ [言語活動例] イ	144	
	故事成語	漁父之利	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ・エ	146~147	3
		借虎威	◆我が国の言語文化 ウ・エ・カ	148~149	
		朝三暮四	●読むこと ア・オ	150~151	
		推敲	[言語活動例] イ・オ	152~153	
		学びを広げる 現代に生きる故事成語		153	
		古典の扉 漢和辞典の活用		156	
	史話	先従隗始	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	158~159	3
鶏鳴狗盗		◆我が国の言語文化 イ・カ	160~163		
臥薪嘗胆		●読むこと ア・イ・エ	164~167		
学びを広げる 史話の登場人物		[言語活動例] イ・ウ	167		
古典の扉 歴史を記録する			170		
漢詩	四季 (春暁/春望/聞蟬感懐/八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九/江雪/冬夜読書)	◆言葉の特徴や使い方 ア・オ ◆我が国の言語文化 イ・ウ・エ・カ	172~177	4	
	漢詩の表現	●読むこと ア・イ・エ・オ	178~179		
	望郷 (静夜思/聞雁/『厄除け詩集』より)	[言語活動例] イ・ウ・オ	180~181		
	友情 (送元二使安西/桂林莊雜詠示諸生)		182~183		
	漢詩の世界へ		184~185		
	学びを広げる 題自画		186~187		
	古典の扉 日本の漢詩文		188		
文章	雑説	◆言葉の特徴や使い方 ア・エ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ア・イ・ウ [言語活動例] イ	190~192	2	
思想	論語 学問	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ・エ	194~195	4	
	人間	◆我が国の言語文化 イ・カ	196~197		

		政治	●読むこと ア・オ [言語活動例] イ・オ	198~199,	
		学びを広げる 現代に生きる『論語』		200	
		古典の扉 孔子と門人		202	
近代以降の文章編	小説一	羅生門	◆言葉の特徴や使い方 イ・ウ・エ	204~217	3
		学びを広げる 古典作品の典拠利用	◆我が国の言語文化 ア・カ	218~219	
		レッスン	●読むこと ア・ウ・エ・オ [言語活動例] イ・ウ・オ	220~223	
		学びを広げる 小説の書き換え	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・エ ◆我が国の言語文化 ア・オ ●書くこと ア・イ [言語活動例] ア	224	4
	詩	小諸なる古城のほitori	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ・オ	226~227	3
		時計	◆我が国の言語文化 ア・オ・カ	228~229	
		文学の扉 近代詩と翻訳詩	●読むこと ア・イ・ウ [言語活動例] イ・エ	230	
		サーカス		232~233	
		シジミ		234	
		I was born		235~238	
		学びを広げる 詩の朗読会		239	
	小説二	青が消える	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・エ	242~250	3
		夢十夜	◆我が国の言語文化 ア・エ・カ	251~259	
文学の扉 夢の中で出かけて行く		●読むこと ア・イ・ウ [言語活動例] イ・ウ・オ	260~262		
短歌と俳句	その子二十——短歌十六首	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ・オ	264~268	3	
	文学の扉 短歌の近代	◆我が国の言語文化 ア・エ・カ	269~271		
	いくたびも——俳句十六句	●読むこと ア・イ・オ [言語活動例] ア・イ・ウ	272~276		
	文学の扉 季語と歳時記		277~279		
小説三	学びを広げる 俳句を詠む	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ・オ ◆我が国の言語文化 ア ●書くこと ア・イ [言語活動例] ア	280	3	
	空缶	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・エ	282~301	3	
	待ち伏せ	◆我が国の言語文化 ア・カ	302~309		
学びを広げる 小説の読み比べ	●読むこと ア・ウ・エ [言語活動例] イ・ウ	309			
内と外 日本語の	月の誤訳	◆言葉の特徴や使い方 ア・オ	312~315	2	
	日本語の部屋	◆我が国の言語文化 ア・エ・カ	316~323		
	文学の扉 英語で味わう万葉集	●読むこと ア・イ・オ [言語活動例] ア・エ・オ	324~325		
	文法から解釈へ	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ ◆我が国の言語文化 ウ	28,34,57,67,76, 108	適宜	
	古文を読むために・漢文を読むために	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ ◆我が国の言語文化 ウ・エ	30,35,45,58,71, 109,154,168,17 8,192	適宜	
	読書の扉	◆我が国の言語文化 カ	310,326	適宜	